ご参加・ご支援のお願い

環境文明21の活動は、会員の皆様からの会費、ご寄付、その他様々な方たちのご協力やご支援で成り立っています。今後も継続的に、そしてより積極的に活動していくために、あなたのサポートが必要です。当会の活動や思いに共感いただけましたら、是非ご支援、ご参加をお願いいたします。

◆会員になる・会報誌を購読する

【正会員】会の目的に賛同し、活動にご協力いただける方（総会の議決権あり）

【賛助会員】会の目的に賛同し、パートナーとしてご支援いただける方

【年間購読】毎月発行の会報誌『環境と文明』の購読をご希望の方

会員等種別		年会費	寄付控除	議決権
正会員		９，６００円	×	○
賛助会員	個人（1口）	９，６００円	○	×
	団体（1口）	５０，０００円	○	×
	企業（1口）	１００，０００円	○	×
	学生	３，０００円	○	×
年間購読		９，６００円	×	×

※入会の方法については、当会HPでご確認いただくか、電話・メールにてお問合せ下さい。

◆寄付をする

当会は東京都より認定を受けた「認定NPO」です。ご寄付は、寄付金控除や税額控除の対象となり、所定の郵便払込票をご利用いただきますと手数料がかかりません（現金扱い手数料は除く）。その他の方法については、当会HPでご確認いただくか電話・メールにてお問合せ下さい。

◆活動に参加する

当会では、部会やセミナーの開催、提言への賛同募集等を行っています。当会に興味を持っていただけましたら、是非一度ご参加下さい。

代表・顧問から皆さんへ

環境文明21は、「環境問題は文明の問題」という認識でスタートしたNPOです。1993年の設立以降、人々の暮らしは物質的には豊かになったように見えますが、それが本当の豊かさなのか疑問に感じることもあります。なぜなら、温暖化に伴う気候変動はますます激化し、毎年多くの人々の生命・財産を奪うほどの気象災害が世界中で頻発しているからです。また生物界では環境の悪化により種や個体数の減少が顕著になり、多くの専門家が地球史上6度目の大絶滅の危機にあると指摘するほどです。このように、私たちの生命の基盤である環境の悪化はますます深刻化しています。加えて、グローバル化する経済の中で、貧富の格差は拡大を続け、私たちの暮らしや社会の安定を根こそぎ破壊するほどの規模とスピードで進行しています。化学物質の多用による人体への影響（環境ホルモン）も深刻です。

こうした状況を少しでも食い止め、子どもたちに、「安心・安全で心豊かに暮らせる持続可能な社会」を引き継ぐためには、私たち自身の価値観や社会・経済の仕組みそのものを見直し、変えていく勇気を持つことが不可欠です。

そうした新たな文明づくりに向けて、独立した専門家としての視点を持ちながら、市民の心を大切にし、市民の立場で行動する私たちと一緒に活動してみませんか。

（代表：藤村コノヱ、顧問：加藤三郎）

認定NPO法人 環境文明21

Japan Association of Environment and Society for the 21st Century

〒145-0071　東京都大田区田園調布2-24-23-301
TEL：03-5483-8455　FAX：03-5483-8755
E-mail：info@kanbun.org
URL：http://www.kanbun.org

持続可能な環境文明社会の構築を目指して

私たちは、今日の混迷する社会にあって、特定の利害にとらわれず、長期的な視点を持って、次世代も含めた全ての人が、安心・安全で心豊かにいきいきと暮らせる持続可能な社会を創ることを目指して、1993年から活動しているNPOです。

解決しなければならない課題を明確にし、先人の知恵なども参考にしながら、有限な地球環境の中で、私たちはどのような価値観を持ち、どのような社会を築いていけばいいのか、その羅針盤となり、一歩ずつでも社会を変えることが私たちの目標です。

認定NPO法人　環境文明21

Japan Association of Environment and Society for the 21st Century

活動の４つの柱

■調査研究

持続可能な社会はどんな社会か、どんな価値観、経済活動、制度を作っていけばいいのかなど、本質的な課題について調査研究を行っています。

①環境文明社会の構築とその普及
日本の持続性の知恵やグリーン経済などの研究成果を活かし、これまでの「経済」中心の社会から、「環境」を主軸に据えた新たな社会のあり方と実現策を研究し、普及に努めています。

②環境倫理／日本の持続性の知恵の探求
21世紀における精神性の基盤を探求し続け、特に今後の「脱炭素」時代に生きるための考え方の基盤となる倫理について取りまとめ公表しました。

③グリーン経済の探求／経営者の環境力大賞事業
脱炭素で持続可能な社会を支える、環境と調和した経済の姿を明確にし、それを実現する方策を探求。その一環として、企業が有する環境力と経営について研究し、環境力大賞事業として公表しています。

■普及・啓発

社会の有り様や考え方の基盤、環境の現状、科学的な最新情報や取組なども含めた「環境文明21」ならではの本質的な情報を、多くの人に広めていくために活動しています。

①会報の発行（毎月発行）
持続可能な社会を創る基盤となる考え方や今後の方向、最新の動向やオピニオンを紹介しています。

②環文ミニセミナーの開催（毎月１回開催）
会報で取り上げた内容を深堀するため、講師との意見交換を含めたセミナーを開催しています。

③「環文ブックレット」等の出版
調査研究や部会活動の成果として、「環境文明社会」「食と環境倫理」「欧米のNGOに学ぶ」「持続可能な交通を目指して」「飲料自販機から見える環境問題」等を出版。最近は脱炭素社会に関する書籍を出版しました。

④各種セミナーの開催
独自の手法で企業研修・セミナーの企画・運営を行っています。

■政策提言

調査研究成果を元に政策提言を行います。さらに、公聴会等での意見表明、具体的法案・条例案を作成し提案しています。

①憲法に環境原則（持続性理念）を導入する政策提言
環境問題が世界の持続性を脅かす重要課題であることから、現憲法の三原則に環境（持続性）原則を加える提案を継続的に行っています。

②地球温暖化防止など環境・エネルギー政策に向けた提案
欧米などでの最新の取組を継続的に紹介しつつ、緊急提言等で日本政府に対し具体的提案をしています。

③「脱炭素」時代を生きる覚悟と責任
脱炭素時代を生きるための考え方や行動規範などを取りまとめて提言しました。

④環境教育推進法の成立ならびに改正法に向けた提案
当会が発案し、率先して活動した結果、議員立法で成立。改正法では多くの提案が採用されました。

⑤市民版環境白書「グリーン・ウォッチ」の編集支援
2015年6月に設立された『グリーン連合』が毎年発行する「グリーン・ウォッチ」の編集を支援しています。

■交流

「環境問題は文明の問題」という視点で活動している当会の考え方や活動を広く知ってもらい、交流する機会を設けています。

①全国交流大会
全国の仲間との交流のため、年に1回開催しています。

②部会活動
調査研究や政策提言の土台を作る場として、テーマを設定して毎月1回程度開催しています。

③エコツアーの実施
持続可能な地域の見学など、全国各地の会員が地域の特色を活かしたエコツアーを企画・開催しています。最近は国立環境研究所を見学し科学の最先端を学びました。またコロナ禍では宮沢賢治を訪ねる旅をWebで開催。その他、佐渡の持続可能な地域づくり、滋賀県高島市の生水の郷、奈良県薬師寺・山野辺の道、兵庫県豊岡市のコウノトリの郷などを見学しました。

最近の活動

調査研究

- ○環境文明社会の価値・社会基盤・暮らしの提案と普及
- ○日本の環境NPO/NGOの活動と課題に対するアンケート調査
- ○気候危機時代をリードする「政治家としての倫理と政策」に関する緊急アンケート調査
- ○日本の環境NPOの全国組織『グリーン連合』の運営協力と市民版環境白書作成支援
- ○経営者「環境力」大賞事業の継続と経営者「環境力」クラブの運営

政策提言

- ○「脱炭素」時代を生きる覚悟と責任
- ○「環境プラス立国」の推進
- ○憲法への環境原則の導入と環境倫理の訴え

普及啓発

- ○市民や企業人の環境力アップのための研修
- ○環文ミニセミナーの開催

理事・役員等(2023年4月 現在)

代表理事	藤村コノヱ	株式会社環境文明研究所 副所長
理　事	荒田　鉄二	公立鳥取環境大学 環境学部 教授
理　事	井村　秀文	名古屋大学 名誉教授
理　事	上田　勝朗	一般社団法人全国浄化槽団体連合会 会長
理　事	工藤　泰子	一般財団法人日本気象協会 主任技師
理　事	許斐喜久子	奈良市地球温暖化対策地域協議会 幹事
理　事	柴山徳一郎	株式会社ヤマト 総務部 部長
理　事	杉浦　淳吉	慶應義塾大学 文学部 教授
理　事	田崎　智宏	国立環境研究所 資源循環社会システム研究室長
理　事	田中　充	法政大学 地域研究センター客員教授
理　事	内藤　弘	株式会社エックス都市研究所
理　事	増井　利彦	国立環境研究所 社会システム領域長
監　事	山口　耕二	認定NPO法人国際環境経済研究所 理事・事務局長
顧　問	加藤　三郎	株式会社環境文明研究所 所長
顧　問	埋田　基一	環境コンサルタント
顧　問	原　剛	毎日新聞客員編集委員、早稲田環境塾塾長、 早稲田大学名誉教授
顧　問	松尾　友矩	東京大学名誉教授、東洋大学顧問・ 元学長・名誉教授